ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

小簾紅園（おずこうえん）の造営

1/5

小簾紅園は、呂久（ろく）川（現在の揖斐川）の渡し跡に、昭和４年４月26日に完成しました。
皇女和宮が、時の将軍家茂公に嫁ぐため、文久元年（1861）10月26日に、
呂久川を渡船されました。
そのとき詠まれた歌を主碑とし、造営の経緯や願いを記した副碑と多くの楓を配した
遺跡公園となっています。

ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

小簾紅園（おずこうえん）の造営

2/5

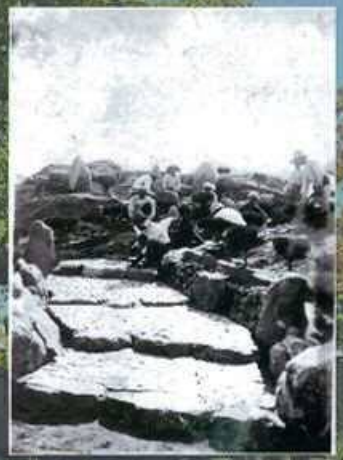
完成当時の様子がわかる「和宮様御遺跡記念」の絵葉書（5枚組のうち4枚）

造営当時の様子が、記念絵葉書からわかります。
1000 坪に及ぶ敷地に、本碑と副碑、泉水も設けられました。

ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

小簾紅園（おずこうえん）の造営

小簾紅園造成工事の様子



ここに広大な和宮遺跡が造営されたのは、大正末の揖斐川改修工事により旧河道が埋め立てられ、渡し跡がなくなったことがきっかけになりました。
また、河川工事期間中の大正15年10月、東京の増上寺で和宮様の50回忌法要がありました。これを機に遺跡造営の機運が一層高まり、歴史ゆかりの地 呂久の渡し跡に造ることになったのです。

小簾紅園（おずこうえん）の造営

除幕式のポスター

小簾紅園の除幕式には、文部大臣や岐阜県知事を始め、県人会や近隣自治体、建碑に尽力した郷土の人々が多く出席して行われました。

式後の祝賀会には、新川の河原に数千人の人々が集まり、花火、相撲大会、鷺田（さぎた）音頭の踊り、餅まきなどが行われたといわれています。

ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

小簾紅園（おずこうえん）の造営

天皇の妹君に生まれながら、国の危難を担われ救国の大事業を成し遂げられた崇高・雄大な宮様の生涯をのちのちまで顕彰しようと、呂久では４月の小祭と10月の本祭の和宮祭を休むことなく行ってきました。
和宮遺蹟保存会では、この和宮遺跡の維持管理と年２回の和宮祭を、先人の願いを引き継ぐものとして、今後も大切にしていきたいと願っています。